

ホワイトペーパー

モダナイズされたITから得られるインサイト： モジュラー型コンピューティングが与える大きな影響

モジュラー型サーバーがITトランスフォーメーションに与える影響に関する詳細な調査と徹底分析

Scott Sinclair、ESG社シニア アナリスト

2018年8月

目次

混乱している IT の現状.....	3
IT トランスフォーメーションの重要性	4
変革プロセスの開始.....	6
変革ワークロードの出現	7
インフラストラクチャの変革.....	8
IT トランスフォーメーションにおけるモジュラー型コンピューティングの役割	9
モジュラー型コンピューティングの価値	10
モダナイズされた IT がモジュラー型サーバーを使用する理由.....	12
より大きな真実.....	13

混乱しているITの現状

多くの企業では、リスク回避が依然としてITを牽引しています。現代のビジネスはデジタル サービスに依存しているため、IT組織はこれまで伝統的かつ保守的に信頼性と予測可能性を優先してきました。あるITサービスが使用不可になると、多くの場合、ビジネスの一部が停止します。わずかな時間でもビジネスが停止すると、収益に影響が出る可能性があります。最新のビジネスには高速かつ柔軟なITが必要です。この新たな現実により、優先順位が変わりつつあります。つまり、現代のIT組織は予測可能性と信頼性よりもスピードと俊敏性を優先するのです。現代のIT組織にとって、信頼性と予測可能性を重視することは戦いに負けることを意味します。その結果、「老朽化したIT組織」（ESG Researchが定義した言葉）はもがき苦しんでいます。

ESG Researchが定義した「老朽化したIT組織」

- IT組織の74%が、ITサービス導入の優先事項として、信頼性/予測可能性とスピード/俊敏性の間でバランスをとっています。
- 49%が、適切なペースでITサービスを導入していない、または、適切なペースでITサービスを導入しているかどうかかわからないと答えています。
- 32%が、ワークロード用のオンプレミス インフラストラクチャのプロビジョニングにかかる時間についてLOB（基幹業務）ユーザーの要望にできていない、または、応えているかどうかかわからないと答えています。
- 31%が、ワークロード用のオンプレミス インフラストラクチャの拡張にかかる時間についてLOBユーザーの要望にできていない、または、応えているかどうかかわからないと答えています。

信頼性は重要です、しかし今日のIT需要を考えると、信頼性があるだけでは十分ではありません。

デジタル経済の台頭

現代のデジタル経済の実態は、ビジネスを混乱させ、ひいてはITを混乱させています。デジタル経済の台頭とともに、データの効果的な利用とビジネス上の成果が直接リンクするようになってきています。従来、ITサービスはビジネスを行うために必要なものでした。つまり、電気のように、必要不可欠のものであって、差別化要因ではありませんでした。デジタル経済はこの力を一変させました。

分析の利用とIoT（モノのインターネット）の成長に伴い、データは単に必要なだけではない存在になりました。データが差別化要因になったのです。人工知能、機械学習、ディープ ラーニングなどの最新テクノロジーの出現により、数日や数週、数か月ではなく、ほんの数分、数時間で、未加工のデータを貴重なインサイトに変えることが可能になりました。データから得られるインサイトは、ビジネスをよりお客様と結び付け、生産性を向上させ、場合によっては新しい収益源を生み出します。古参企業や旧態依然の企業は、現代に産声を上げたビジネスとの競争に苦しんでいます。デジタル企業と呼ばれる現代の企業は、より少ない工数でシステムを維持し、より優れた成果をより迅速に達成できます。

今日のデジタル経済では、ITの迅速性は競争優位性とイコールです。いわゆるデジタル企業は巨大なITの優位性を持ち、より迅速かつ俊敏にITサービスを提供することで、その優位性を最大限に利用します。若い新進企業は、成長とイノベーションに重点を置いた成果を優先します。こうした企業は環境に適応して、新しいテクノロジー、分析、コストの優位性を利用できます。これらの強みはビジネス成果の向上をもたらし、その結果、収集して分析できるデータ量が増え、さらに高度なインサイトが得られることになります。つまり、デジタル企業にとって、ITサービスの提供とデータ分析における競争優位性は、時間とともにより大きく成長し、小さな優位を大きな優位に変える可能性を秘めています。

ITトランスフォーメーションの重要性



61%

のモダナイズされたIT組織が、信頼性や予測可能性よりもスピードと俊敏性を重視

IT意思決定者とビジネスリーダーがITトランスフォーメーションの重要性を理解できるように、ESGは詳細な研究調査を実施しました。この調査は、ITトランスフォーメーションそのものと、ITトランスフォーメーションの作業と成果についてのサーバーコンピューティング機能の重要性について、鍵となる項目を明らかにするために行われました。ESGは、北米（米国およびカナダ）、西ヨーロッパ（英国）、アジア太平洋地域（オーストラリア、香港、ニュージーランド）の大手中堅企業（従業員数500人から999人）および大企業（従業員数1,000人以上）のIT意思決定者500人を調査対象としました。また、調査対象は、金融、製造、政府、教育、医療など、さまざまな業界にわたりました。

調査では、最新のインフラストラクチャ技術とITプロセス自動化の採用についての複数の質問を基に、調査に参加した各組織にITモダナイゼーションの成熟度スコアを割り当てました。そのスコアに基づき、各参加組織を、最低レベルのモダナイゼーションから最高レベルのモダナイゼーションまでの3つのカテゴリに分類しました。この3つのカテゴリとは、老朽化した組織（23%）、モダナイズ中の組織（65%）、モダナイズされた組織（12%）です。モダナイズされたIT組織のデータを老朽化したIT組織のデータと比較すると、いくつかの明確な違いが見えてきます。

たとえば、モダナイズされたIT組織の場合

- **スピードと俊敏性を優先：**モダナイズされたIT組織は、ビジネスに応じたペースで行動する傾向が、行動しない傾向の13倍で、93%対7%になっています（図1を参照）。これは、信頼性と予測可能性よりもスピードと俊敏性を優先することで実現されています。信頼性が重要でないというわけではありません。信頼性も必要です。しかし、ITの重点は、スピードと俊敏性にシフトしつつあります。
- **エンドユーザーと基幹業務ユーザーの満足度を向上：**スピード、俊敏性、革新に重点を置くことで、モダナイズされたIT組織では、基幹業務エンドユーザーの満足度が向上した強い傾向が見られます。その結果、老朽化したIT組織と比較して、これらの企業の革新性、効率性、収益増加の機会が高まることになります。例：

- **93%**：モダナイズされたIT組織の93%が、ビジネスに必要なペースでITサービスを導入していると回答したのに対し、老朽化したIT組織は51%でした。
- **96%**：モダナイズされたIT組織の96%が、ワークロードのオンプレミス インフラストラクチャのプロビジョニングにかかる時間について基幹業務ユーザーの要望にしていると回答したのに対し、老朽化したIT組織では67%でした。
- **99%**：モダナイズされたIT組織の99%が、ワークロードのオンプレミス インフラストラクチャの拡張にかかる時間について基幹業務ユーザーの要望にしていると回答したのに対し、老朽化したIT組織では69%でした。



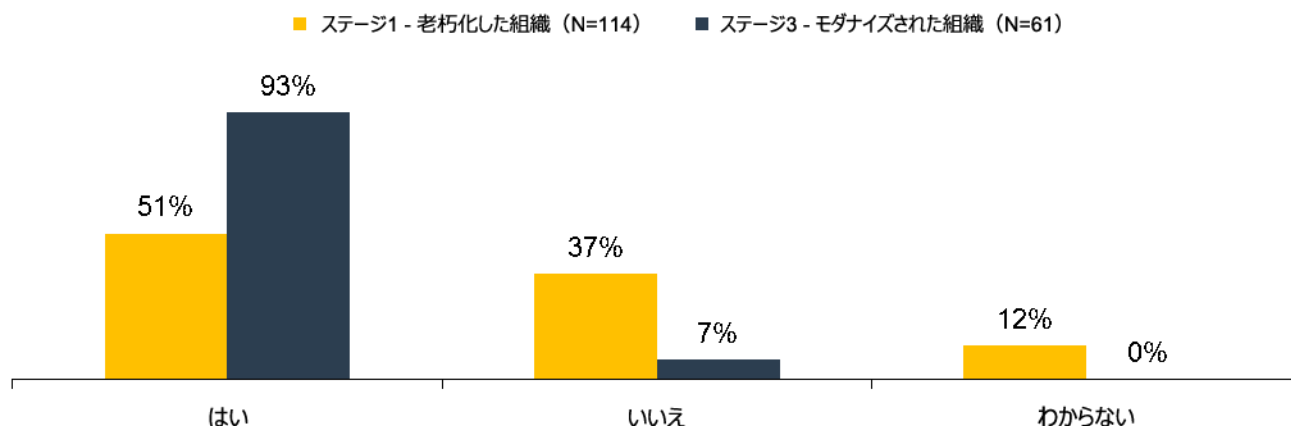
99%

モダナイズされたIT企業間では、回答者の**99%**がインフラストラクチャの拡張に基幹業務ユーザーが満足していると回答したのに対して、老朽化ITでは69%です。

- **モジュラー型コンピューティングの利用は、老朽化した組織の4倍：**データセンターでモジュラー型コンピューティングを使用している割合の平均は、モダナイズされたIT組織の場合、老朽化したIT組織の4倍になります。さらに、モジュラー型サーバーを使用しているすべての組織の中で、モダナイズされたIT組織は、老朽化IT組織に比べて、モジュラー型サーバーの使用によって多くのメリットを得ているという傾向がありました。例：
 - モダナイズされたIT組織が、モジュラー型コンピューティングについて管理しやすかったと答えた割合は、老朽化した組織の3.5倍でした。
 - モダナイズされたIT組織が、モジュラー型コンピューティングによって柔軟性が向上したと答えた割合は、老朽化した組織の2倍でした。
 - モダナイズされたIT組織が、モジュラー型コンピューティングによってITサービスの提供がより迅速になったと回答した割合は、老朽化した組織の2倍でした。
 - モダナイズされたIT組織が、モジュラー型コンピューティングによって信頼性がより高まったと回答した割合は、老朽化した組織の2倍でした。

図1：モダナイズされたIT組織は事業ペースでサービスを導入

お客様のIT組織は、ビジネスのニーズに対応するペースでITサービスを開発、導入していますか。（回答者の割合）



出典：Enterprise Strategy Group

モダナイズされたIT組織と、老朽化したIT組織の間には明確な相違があります。モダナイズされたIT組織は、スピードと俊敏性を優先した戦略的な意思決定によって成功の多くを実現していますが、スピードと俊敏性を優先することと、最新テクノロジーを利用することによる相乗作用もあることがデータから読み取れます。たとえば、モダナイズされたIT組織は、老朽化したIT組織よりもモジュラー型コンピューティングを活用している傾向が高いだけでなく、テクノロジーからの恩恵もより多く受けている傾向があります。この調査から、企業のデータ重視が高まる現在、信頼性と予測可能性だけを重視する旧来の老朽化したIT組織の傾向では十分ではないということがわかります。

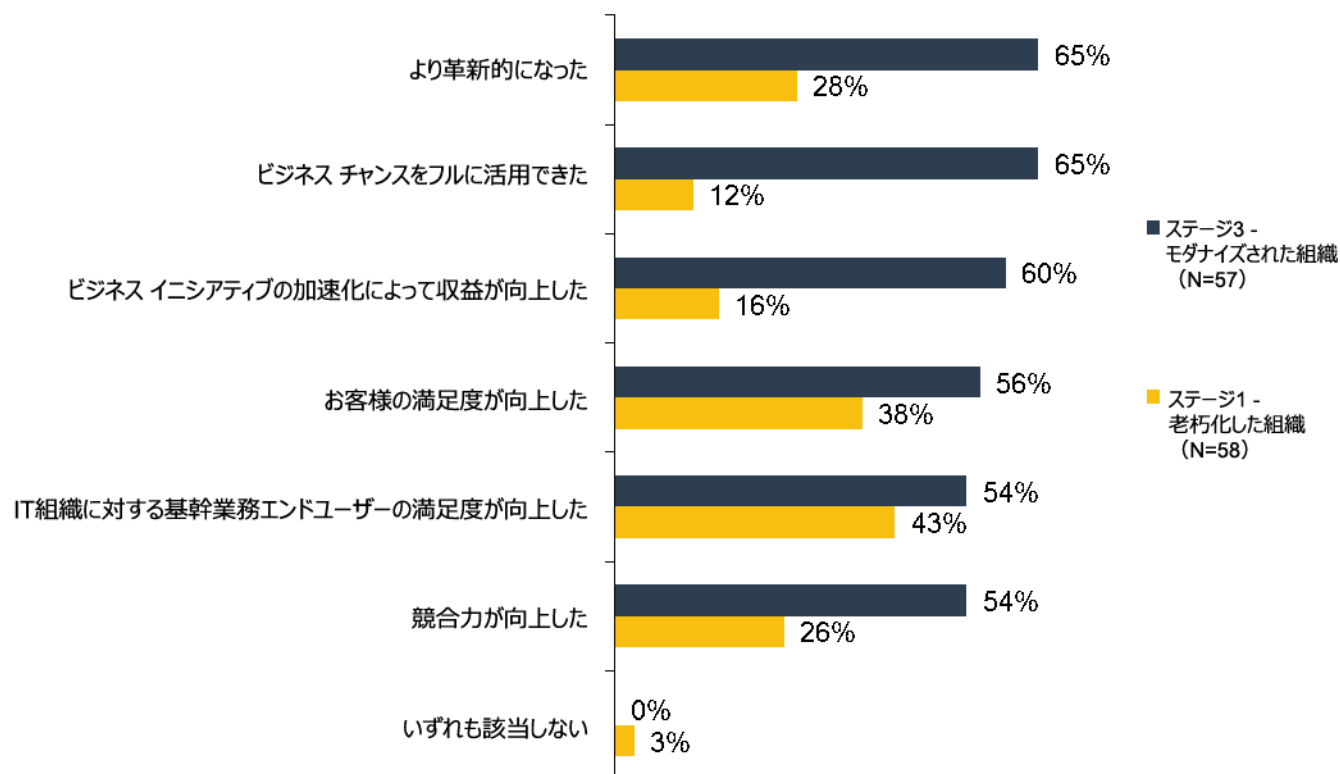
変革プロセスの開始

モダナイズされたITのメリットは、ITサービスの提供と社内利用者の満足度の向上にとどまりません。モダナイズされたITとは、ビジネスのデジタルトランスフォーメーションを実行し、利益を向上させるための基礎となる一歩です。ビジネスに必要なペースでITサービスを導入することは、競争力とトランスフォーメーションの成果を大幅に向上させることにもなります（図2を参照）。さらに、モダナイズされたITは、たとえ老朽化したITでビジネスのペースと需要を満たせる場合であっても、老朽化したITと比べて、より優れた利得を実現します。

モダナイズされたIT組織は、これらのメリットのすべてのについて、より高い割合で実現できていました。さらに興味深いのは、ビジネスチャンスを活用して大きな収益を上げることができた、というような明らかなビジネス上のメリットが、モダナイズされたIT組織では4倍から5倍という大幅に高い割合で見られた点です。

図2. ビジネス上の成果をITのスピードと俊敏性によって実現

IT組織が適切なペースでITサービスを開発、導入できるようになった結果として、社内では達成されたビジネス上の成果は次のうちどれですか。（回答者の割合、複数回答可）



出典：Enterprise Strategy Group

言葉を換えれば、老朽化したITでも、まだビジネス ニーズのペースに対応できる可能性があるということです。ただし、これが可能であっても、老朽化したITを有する企業が得る利益ははるかに少なくなります。老朽化したIT組織が競争力を維持するには、よりモダナイズされた企業になる必要があります。変化し、高い適応性を持ち、柔軟性が高く、ライバルに追いつける企業にです。しかし、老朽化したIT企業がそこに到達するには、何が必要でしょうか。

答えは単純です。老朽化したIT企業がモダナイズされたIT組織を真似ればよいのです。予算を、既存ITの維持から将来の成長分野への投資にシフトする必要があります。組織は、老朽化したITのための設備投資と運用コストを削減し、財源と人的資源をイノベーション、最新技術、スピード、俊敏性に向ける必要があります。

変革ワークロードの出現

企業がデジタル トランスフォーメーションを求めるにつれ、新興の変革ワークロードをより多く導入することで、データからより多くの価値を抽出できるようになる一方で、ITにとって新たな要件が生まれています。モダナイズされたITにとって優先事項であるスピードと俊敏性は、ある程度、事業を推進しますが、新たに出現した変革ワークロードにとっては、俊敏で柔軟なITアーキテクチャも必要です。従来のワークロードと変革ワークロードの違いを評価する際には、まず次の定義から始めるとよいでしょう。

- **従来のワークロード**には、ファイル、印刷物、Webサービス、仮想デスクトップ、コラボレーション アプリケーション、コンテンツ アプリケーションなどの主流のワークロードが含まれます。
- **変革ワークロード**には、構造化データ分析、非構造化データ分析（認知/AI）、クラウド ネイティブ アプリケーションなどの新興のワークロードが含まれます。

別の言い方をすれば、従来のワークロードは、従来のビジネスを実現するものです。一方、変革ワークロードは、データからより多くの価値を抽出して、企業がよりスマートで効率的な企業に成長し、新たな市場へ参入して新たな収益源を開拓することを可能にするインサイトを提供するものです。変革ワークロードは、より直接的にビジネスの成果と連動します。そして、この連動により、スピードと俊敏性のさらなる向上が求められます。これを支えるITインフラストラクチャがボトルネックになってはなりません。企業が競争力を維持するには、順応して進化できるインフラストラクチャでなければなりません。モダナイズされたIT組織が、より高い割合のITリソースを変革ワークロードに割り当てていたことは、驚くべきことではありません（図3を参照）。例：

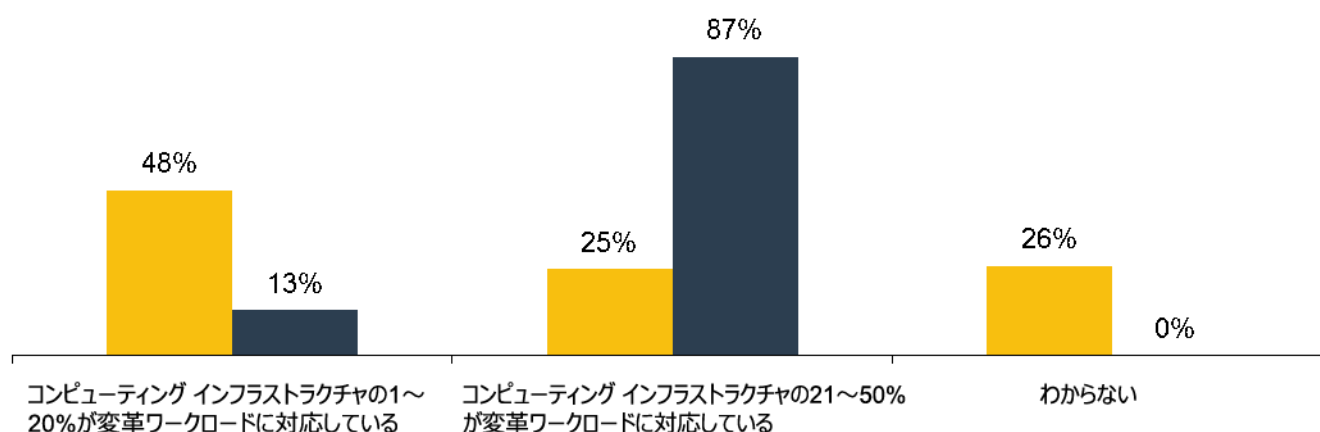
- **87%**：モダナイズされたIT組織の87%が、コンピューティング リソースの20%以上を変革ワークロードに割り当てているのに対し、同様に割り当てている老朽化した組織は、わずか25%です。

こうした変革ワークロードの高い導入率と重視は、モダナイズされたIT企業により達成されるビジネス成功において中心的な役割を果たしています。

図3. 変革ワークロード専用のコンピューティングの割合

組織に導入されているオンプレミス コンピューティング インフラストラクチャのおよそ何パーセントが、
(従来のワークロードではなく) 変革ワークロード専用として使用されていますか。
(回答者の割合)

■ ステージ1 - 老朽化した組織 (N=68) ■ ステージ3 - モダナイズされた組織 (N=60)



出典：Enterprise Strategy Group

インフラストラクチャの変革

必要なITのスピードと俊敏性を実現するためには、適切なITスタッフと、適切な最新のインフラストラクチャ テクノロジーの組み合わせが必要です。ビジネス ニーズの変化に対応できていると答えたIT組織に、サービス導入の成功理由を尋ねると、モダナイズされたIT組織は、インフラストラクチャ テクノロジーが成功に貢献した役割を明確に説明できる傾向が強くありました（図4を参照）。

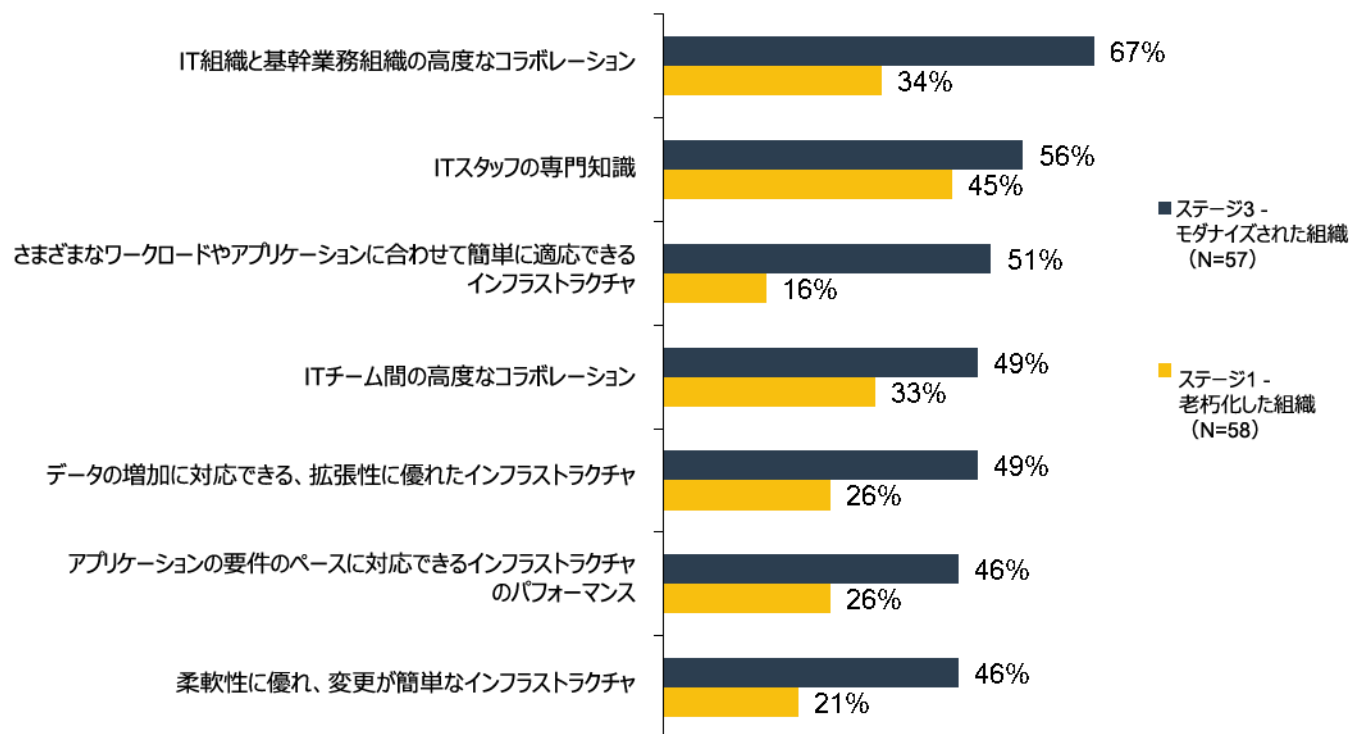
たとえば、モダナイズされたIT組織の場合は

- ITサービス提供の最大の成功理由の1つが**インフラストラクチャの適応性**であるとする割合が**3倍多い**。
- ITサービス提供の最大の成功理由の1つが**インフラストラクチャの拡張性**であるとする割合が**2倍多い**。
- ITサービス提供の最大の成功理由の1つが**インフラストラクチャの柔軟性**であるとする割合が**2倍多い**。
- ITサービス提供の最大の成功理由の1つが**インフラストラクチャのパフォーマンス**であるとする割合が**1.75倍多い**。

つまり、多くはないにしろ、老朽化したITでもITサービスを適時に提供することはできますが、そうした成功は担当者の懸命な努力によるところが大きいと言えます。一方、モダナイズされたIT組織では、担当者とテクノロジーの両方の能力のおかげで成功を達成していると言えます。

図4. ITサービス提供が成功する7つの理由

IT組織がビジネスのニーズに対応するペースでITサービスを開発、導入できている最大の理由は、次のうちどれですか。
(回答者の割合、複数回答可)



出典：Enterprise Strategy Group

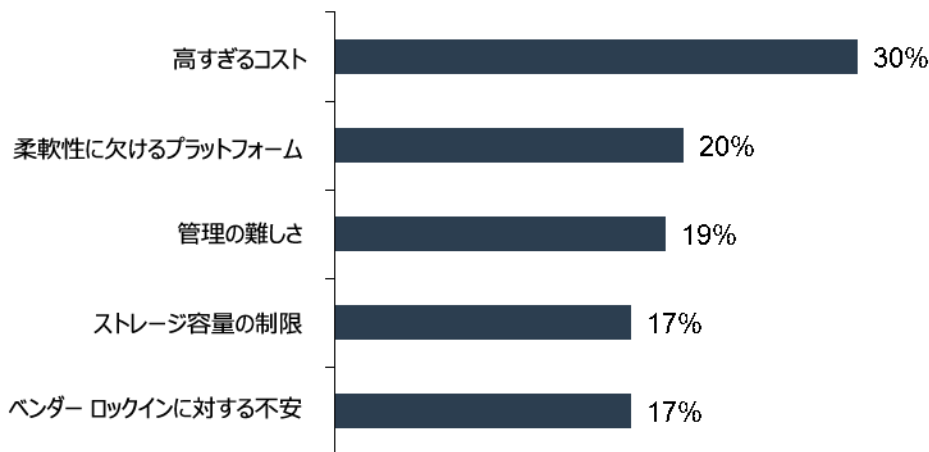
ITトランスフォーメーションにおけるモジュラー型コンピューティングの役割

現代のITインフラストラクチャの導入における重要な要素は、モジュラー型サーバーテクノロジーの使用です。ESGの調査によると、モダン化されたIT企業のデータセンターでは、モジュラー型サーバーが平均20%という大きな割合を占めるのに対し、老朽化したITでの平均値はわずか5%です。

モジュラー型コンピューティングの採用を控えているIT組織はどのような認識を持っているのでしょうか。図5のデータは、モジュラー型サーバーを現在使用していないIT組織がモジュラー型サーバーテクノロジーの導入に踏み切れない理由として最も多い上位5つの理由を示しています。最も多い懸念事項はコスト（30%）であり、その後に、柔軟性の欠如や、サーバーの管理が難しいという認識などの他の要因が続いています。

図5. モジュラー型サーバー ソリューションを導入しない理由として最も多い上位5つの理由

IT組織がモジュール型サーバ ソリューションを社内環境に導入しなかった理由は、次のうちどれですか。
(回答者の割合、N=119、複数回答可)



出典：Enterprise Strategy Group

ただし、この質問については、もし、懸念を解決するモジュラー型コンピューティング ソリューションがあれば、モジュラー型サーバー テクノロジーに関する考えは変わるかもしれないという回答者が多くいました。この再検討への意欲は、モダナイズされたIT組織ではさらに顕著に見られました。調査参加者全体では合計5%から1%が再検討への意欲を見せたのに対して、モダナイズされたIT組織では、考えを変えるかもしれないという人の割合が12倍多くいました。

モダナイズされたIT組織が持つ、モジュラー型サーバー テクノロジー統合へのこうした意欲の高さは、モダナイズされたIT組織が新技術の潜在能力を高く評価していて、そうしたテクノロジーが優れた機能を提供するならば、新たなテクノロジーをさらに意欲的に統合するということを裏付ける、さらなるエビデンスになります。しかし、興味深いことに、図5で明らかになった懸念事項は、図6のデータ群（現在モジュラー型サーバーを利用している組織から収集されたデータ）と矛盾しているように見えます。非ユーザーの間ではモジュラー型サーバー ソリューションに対する誤解が存在していることが考えられます。

モジュラー型コンピューティングの価値

モジュラー型サーバーのユーザーに、このテクノロジーから受けたメリットを尋ねたところ（図6を参照）、最も多く回答されたメリットは拡張性の向上（57%）で、その後に柔軟性の向上（54%）、管理のしやすさ（50%）が続いていました。このデータを、モジュラー型サーバーを使用していない組織が回答した懸念事項（図5を参照）と並べて比較すると、上位のほぼすべての懸念事項は、大部分のユーザーがメリットとして挙げたものと同じです。また、特定のメリットが得られたというユーザーの割合は、懸念事項を回答した非ユーザーの割合を超えています。

例：

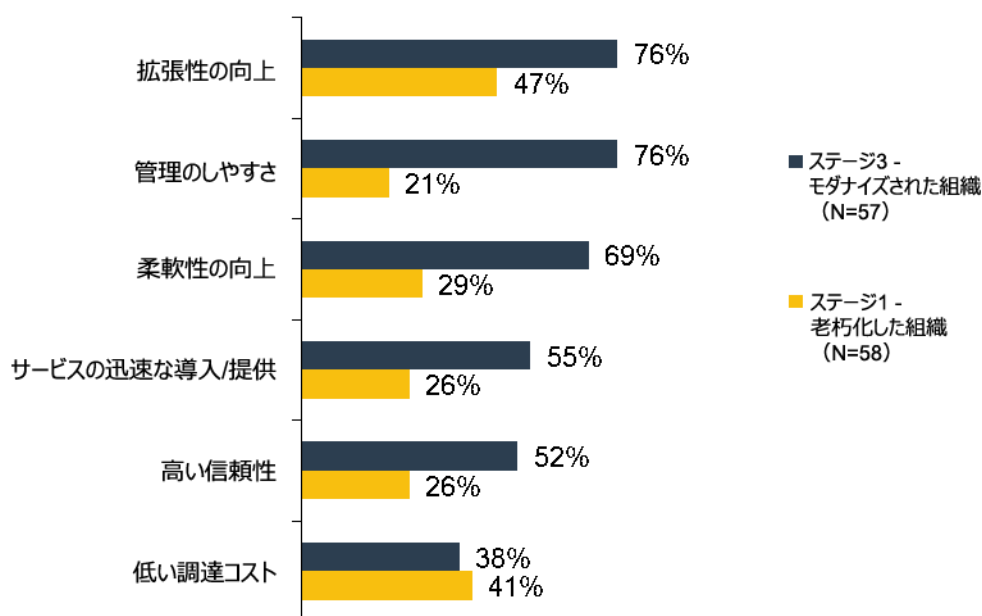
- モジュラー型コンピューティングのユーザーの54%が、メリットとして柔軟性の向上を挙げたのに対し、プラットフォームが柔軟性に欠けるという懸念事項を指摘した非ユーザーは、わずか20%でした。

- モジュラー型コンピューティングのユーザーの50%が、メリットとして管理のしやすさを挙げたのに対し、プラットフォームが管理しにくいとした非ユーザーは、わずか19%でした。
- この傾向はコストについても同様で、ユーザーの39%が、メリットとして低い調達コストを挙げたのに対し、モジュラー型サーバーは高すぎると答えた非ユーザーはわずか30%でした。

こうした矛盾の要因の1つとして、高いニーズを抱えるIT組織が、まだモジュラー型サーバーテクノロジーに対して懸念を持っている一方で、ニーズが低い組織がメリットを実現していることが考えられます。しかし、ほぼすべてのケースで、モダナイズされたIT組織が老朽化したITユーザーよりメリットを得ている傾向が高いことから、この議論は成立しません。

図6. モジュラー型サーバー ソリューションで実現したメリット

社内環境へのモジュール型サーバソリューションの導入により、会社が経験したメリットは次のうちどれですか。
(回答者の割合、複数回答可)



出典：Enterprise Strategy Group

この矛盾を説明するより合理的な理由として、モジュラー型コンピューティングに対する誤解がまだ存在することが考えられます。そして、こうした誤解は主に老朽化したIT組織によるものです。老朽化したIT組織は、モジュラー型コンピューティングのフットプリントが比較的小さく、受けるメリットもあまり大きくない傾向があります。この矛盾がモジュラー型コンピューティングに対する誤解によるものとする説を裏付ける例として、老朽化したIT環境で最も多く懸念されている問題がコストであったことが挙げられます

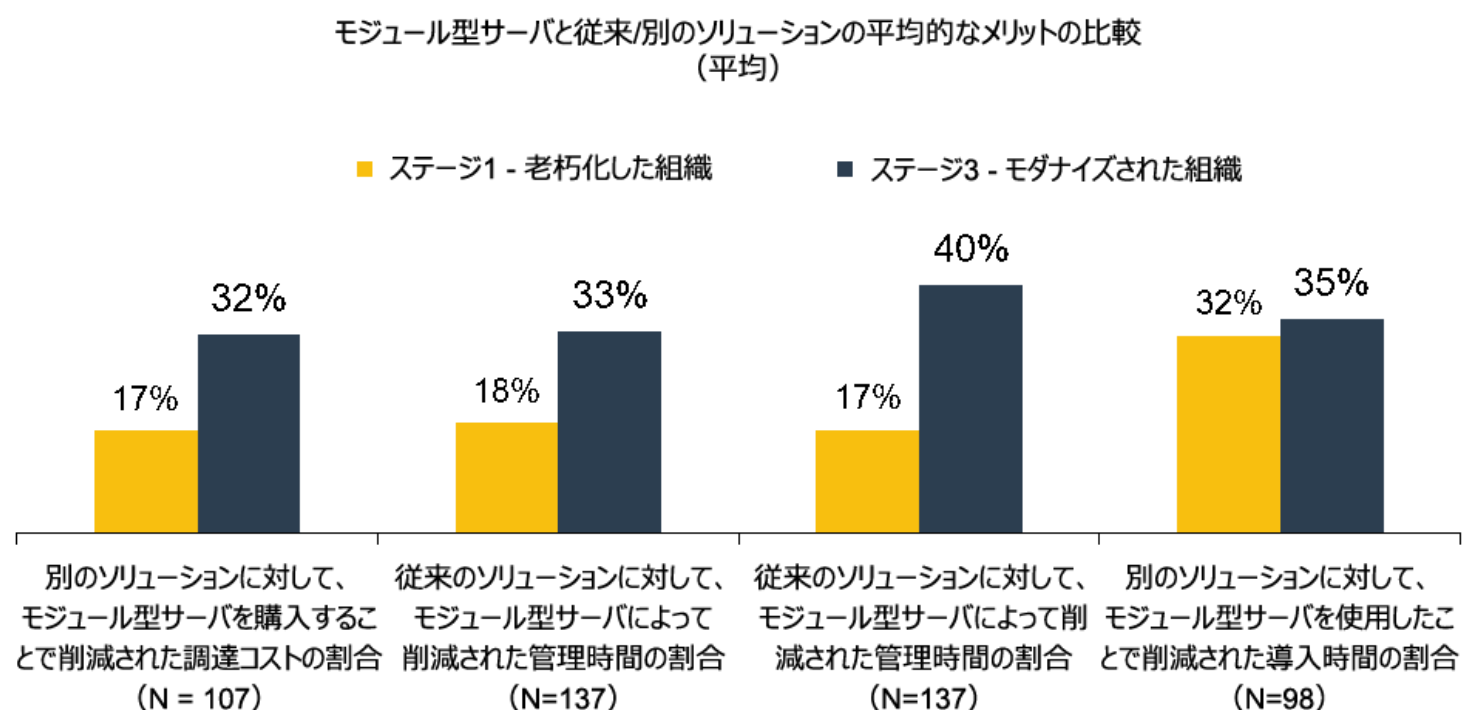
(35%)。一方で、モジュラー型サーバーソリューションを使用している老朽化したITユーザーは、調達コストを低く抑えることができたと回答(41%)しており、これは、老朽化したIT組織がメリットとして挙げた割合が、モダナイズされたIT組織を上回った唯一のケースです。新しい従量課金制支払いとリース オプションの登場により、老朽化したIT環境でも、モジュラー型サーバーソリューション

ションの初期購入コストを解決できるようになる可能性があります。あるいは、モジュラー型サーバーテクノロジーに切り替える前の老朽化したITのインフラストラクチャコストが高かった可能性があります。

モジュラー型サーバーのユーザーに、テクノロジーによって得られた平均的なメリットを大まかに尋ねたところ、報告されたメリットは、モダナイズされたITが老朽化ITを大きく上回っていました。モダナイズされたITでは、調査された4つのメリットでそれぞれ平均が高く、

4つのうち3つのメリットでは、老朽化したIT環境の2倍近くにのぼりました。

図7. モジュラー型サーバーで実現された定量化されたメリット



出典：Enterprise Strategy Group

モダナイズされたITがモジュラー型サーバーを使用する理由

結局のところ、モジュラー型コンピューティングは、ITトランスフォーメーションにおいてもモダナイズされたIT組織を成功に導くうえでも重要な役割を果たす、強力かつ非常に有益なテクノロジーです。調査データを組み合わせることで見えてくるのは、モダナイズされたIT組織がモジュラー型サーバーテクノロジーを活用する理由を表す、説得力のある事例です。

- スケーラビリティの向上：**モジュラー型サーバーを使用するモダナイズされたIT組織の4分の3以上（76%）は、スケーラビリティの向上を選択しており、これが、モジュラー型サーバーの最も一般的なメリットとなっています。さらに、ビジネスに対

して適切なペースで行動するモダナイズされたIT組織の約半数（49%）は、ITインフラストラクチャのスケラビリティを、タイムリーなITサービスの提供を成功させる要因と位置付けていました。言い換えれば、モダナイズされたITは、モジュラー型サーバーが提供する拡張性に優れたアーキテクチャに依存しているのです。

- **より容易な管理**：モジュラー型サーバーを使用するモダナイズされたIT組織間で最も一般的であったメリットと並び（76%）、モジュラー型サーバーの簡素化された管理は、ITに大きな節約をもたらしています。平均すると、モジュラー型サーバーの管理が容易になったために、管理にかかる時間が33%削減されました。
- **柔軟性の向上**：モジュラー型サーバーは、これを使用しているモダナイズされたIT組織の3分の2以上（69%）で、より大きな柔軟性を提供していました。タイムリーなITサービスの提供を成功させる要因として、モダナイズされたIT組織の46%は柔軟性を挙げ、51%はインフラストラクチャの適応性を挙げました。モジュラー型サーバーの柔軟性は、ITサービスの提供において重要な役割を果たしています。
- **サービス導入/提供の迅速化**：モジュラー型サーバーを使用するモダナイズされたIT組織の半数以上（55%）で、インフラストラクチャ導入時間の改善が報告されました。平均的なメリットでは、費やされる時間が35%削減されていました。モジュラー型サーバーではサービス提供がスピードアップするばかりでなく、リソースの時間を解放して他の、より価値の高いタスクに振り分けることができます。
- **信頼性の向上**：モジュラー型サーバーを使用しているモダナイズされたIT組織の52%は、信頼性の向上を挙げ、平均40%のサービス停止時間削減に役立ったとしました。モダナイズされたIT組織がスピードと俊敏性を優先する一方で、信頼性もまだ必須事項であり、データでは、モジュラー型サーバーは俊敏性を提供しながら、同時に、信頼性が向上することを示唆しています。
- **低コスト**：非ユーザー間で、コストは最も一般的な懸念事項であるにもかかわらず、モダナイズされたIT組織では38%がメリットとして調達が低コストであることを挙げており、そのコスト削減率は平均32%でした。前述の他のメリットを同時に提供しながら、コストを3分の1近く削減することが、モジュラー型サーバーの使用が支持される強力な実績事例となっています。

モジュラー型サーバーのメリットは、モダナイズされたITの優先順位とほぼ直接、一致します。モジュラー型サーバーでは、スピード、俊敏性、簡素化、信頼性、コストのメリットを、高い割合で提供するばかりではなく、各メリットの平均的な影響力も計り知れません。モジュラー型サーバーのテクノロジーについては一部誤解があるようですが、データでは、モダナイズされたIT組織化を可能にするうえで、モジュラー型サーバーが重要な役割を果たすことが示唆されています。

より大きな真実

業界のデジタル化がより鮮明になるにつれ、IT需要は瞬間に老朽化したIT組織の能力を超えてしまいます。その程度はコンシューマーの要件を満たせないほど、あるいは、ひどい場合はコンシューマーの要件を満たせているかどうか分からないほどです。モダナイズされたIT組織の構築はメリットがあるばかりではなく、必須条件になってきました。そして、俊敏、迅速にITを提供することに

対する見返りは計り知れません。モダナイズされたITを持つビジネスはより革新的であり、より多くのビジネスチャンスを含み、より多くの収益を達成し、顧客満足度が向上し、そして単純に、より競争力が強くなります。

モジュール型コンピューティングの大きなメリットにより、モダナイズされたITを実現



管理のしやすさ

管理時間が平均で
33%削減



導入の迅速化

導入時間が平均で
35%削減



信頼性の向上

サービス停止が平均で
40%削減



コストの削減

調達コストが平均で
32%削減

老朽化したIT組織にとって、変革は絶対必要です。ITトランスフォーメーションのプロセスを開始するまでには、新しい変革ワークロードの採用、自動化の促進、最新技術の使用など、いくつかの段階があります。コンピューティング側では、モジュラー型サーバーテクノロジーが回答となります。これにより、組織はスピード、俊敏性、コスト、信頼性に大きなメリットを提供できます。モジュラー型サーバーは、モダナイズされたIT組織が必要とするメリットを提供し、IT組織や、それよりも大きな事業全体を成功に導きます。データから明らかになった最も重要なことは、モダナイズされたITとモジュラー型サーバーテクノロジーが合体すると、相乗効果があることです。メリットは大きく、広がっていきます。ビジネスの競争優位性がデジタル機能によって定義される時代には、IT組織が差別化要因になります。モジュラー型サーバーなどの成功を導く最適なツールをIT組織に与えることが、このデジタル経済での成功者になるか、古い体制の中に置き去りにされるかの明暗を分ける可能性があります。

すべての商標名は、それぞれの企業が所有権を保有しています。この資料に記載されている情報は、ESG（Enterprise Strategy Group）が信頼できるとみなす出典から取得したものです。ESGが保証するものではありません。この資料には、ESGの見解が記載されていますが、必要に応じて変更される場合があります。この資料は、Enterprise Strategy Group, Inc.が著作権を保有しています。Enterprise Strategy Group, Inc.の明示的な同意を得ずに、ハードコピーの形式、電子的、またはその他の方法を問わず、受領が許可されていない者にこの資料の全部あるいは一部を複製または再配布する行為は、米国著作権法に違反し、損害賠償請求の民事提訴、および妥当な場合は刑事告発の対象となります。ご質問がございましたら、ESG Client Relations（電話：508-482-0188）までお問い合わせください。



Enterprise Strategy Groupは、ITの分析、研究、検証、戦略立案を行う企業として、グローバルなITコミュニティに実用的な詳細情報とインテリジェンスを提供します。

© 2018 by The Enterprise Strategy Group, Inc. All rights reserved. （不許複製・禁無断転載）

